花ちゃん・オー君・モンタ博士・フッタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく5

国立市立国立第七小学校

平成３０年2月21日　NO.97（497）

モンタ博士「今日は、興味のままに『わくわくドキドキてくてく』してきた、すご～い先人達を紹介しよう。」

オー君　　「え～っと、この人はナンポウ？クマ…変わった名前ですね。」

モンタ博士「みなかた　くまぐす（南方熊楠）と読むんだ。明治時代、アメリカの学校やイギリスの大英博物館で学び、帰国後は自分のふるさと・和歌山の自然を調べた人だよ。生まれてから１５０周年になるのを記念して、上野の国立科学博物館で展示会が開かれているんだ。」〔3月４日（日）まで〕

フッタ博士「熊楠さんといえば、キノコや粘菌の標本が有名ですね。」

花ちゃん　「ネンキン？お年寄りがもらうお金…じゃないわね。どんな菌なのかしら？」

モンタ博士「変形菌ともいって、ばい菌じゃないよ。あるときはキノコやカビのような姿、またあるときはおもちゃのスライムみたいにドロドロと動き回る、不思議な生命体なんだ。」【検索した動画を見せる】

オー君・花ちゃん「うっわ～！何これ！！」

モンタ博士「彼はこうした変形菌の標本を６０００点、キノコのスケッチを３５００枚も残しているんだ。てくてく野山を歩いてコツコツ採集したんだね。昭和天皇に標本を差し上げて説明（御進講）するほど、すご～い人だったんだ。」

フッタ博士「豊かな自然の残る『鎮守の森』を守ろうという、今の自然保護やエコロジー活動の先駆者でもありますね。」

花ちゃん　「谷保天神の『鎮守の森』は都の天然記念物でしたよね。とても大切な森だってモンタ博士から聞いたわ。」

フッタ博士「変わった菌を調べるだけあって、本人もずいぶ

ん変わった人だったらしい。ゲゲゲの水木しげるさんが『猫楠』というまんがに描いているよ。」

モンタ博士「もう一人は日本地図を作った伊能忠敬。今年は亡くなって２００年。江戸時代、てくてく日本中を歩いて測量したんだ。１０回のツアーを十数年かけて４千万歩も。てくてくてくてく。」

オー君・花ちゃん「え～っ！そんなに！！」

モンタ博士「しかも、５０才を過ぎてから、うんと若い暦学の先生に弟子入りしてね。彼は幼いときから苦労を重ね、伊能家の婿養子になり、立派な名主として村人にしたわれた。息子に仕事を任せ、第二の人生をスタートさせたんだ。」

オー君　「てくてく日本中を旅したかったのかな？」

花ちゃん　「地図に興味があったのかしら？でも、“暦の先生に弟子入りした”って。」

フッタ博士「暦学とは天文学の事で、カ

レンダーや月の満ち欠け、日食・月食の予報なども扱う。昼は歩き、夜は星の位置を確かめながら図を描いたらしい。」

モンタ博士「江戸時代、普通の人は自由に旅行できなかったんだ。まして、よその藩の領地を測量するなんて、とんでもないことだった。“地図作りという幕府の命令”があったから、日本中を歩けたんだよ。」

花ちゃん　「できあがった地図は今の物とそう違わないわ。人工衛星の写真みたい。」

モンタ博士「この『大日本沿海輿地全図』は秘密にされ、伊能家のある千葉県佐原でも、彼の地図作りは知られていなかったらしい。そして彼の本当のねらいは…。」

オー君　「まだ何かあるんですか？」

フッタ博士「それはズバリ、『地球の大きさを知ること』。そのため、江戸から北へ行って緯度の長さを測る必要があった。地図作りはうってつけだったんだ。」

オー君　「この星（地球）の大きさを知りたくてかぁ。男のロマンを感じるなぁ。」

花ちゃん　「忠敬さんの計算は0.1％しか違わなかったんですって。すごすぎる～。」

モンタ博士「…というわけで、てくてくしたすごい先人達のお話でした。みんなも、興味のあることをトコトン追い続けてみるといいよ。」